

NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究環境影響評価準備書 に対する市長意見

1 海底ケーブルの敷設ルートについて

方法書に比べて準備書では海底ケーブルの敷設ルートが具体的に示されているが、海域の先行利用者との調整結果や、既存文献で確認されている水産庁 RDB 危急種ナメクジウオの生息環境等に配慮した内容について、評価書に記載すること。

2 事後調査について

本事業は、一般海域における大型の浮体式洋上風力発電システムの実証研究であり、国内においてこれまで同規模類似施設での稼働後の実測調査データが無い場合、予測の不確実性の観点から以下の点に留意しつつ、適切な事後調査計画を策定すること。

(1) 魚類の蝟集効果について

魚類の蝟集効果に関する事後調査については、事業実施前との比較や水深別、種類別の固体数調査を行う等、効果を定量的に確認できるよう適切な方法を採用すること。

(2) 鳥類のバードストライクについて

洋上風力発電へのバードストライクに関する事後調査については、一般に陸上風力発電で採用されている死骸調査の実施が困難であることから、レーダ調査等、適切な方法を採用すること。

また、事後調査中に新たに鳥類への影響が懸念された場合には、追加的な環境保全措置を検討すること。

3 その他

海生生物に対する水中音に関する予測評価については、予測した水中音と一般的な船舶航行時の水中音を比較するなど、大きさについて分かりやすい目安を示すこと。